

2024 「ことばの森教室」第3回優秀作品紹介

<小学校5年生> 作文課題「一番心を動かされたことを書こう」

5-① 「ゴールのしゅん間」

「パンッ」とピストルの音がなって、運動会のリレーが始まった。アンカーの私は、何位でバトンが渡されるかドキドキしながら応援した。待っている間に、みんなが何度も何度も「がんばれ」と言ってくれたが、それが、だんだんプレッシャーになっていった。

いよいよ私の番、2位でバトンが渡された。最初はただ前だけを見て無我夢中で走っていたが、途中で不安になり、後ろをふり向いてしまった。すると、すぐ後に学校一足の速い男子がせまっていた。はっとして前を向いたら、もうゴール直前だった。安心した瞬間、その男子は横からものすごいスピードで、私を追い越してゴールしてしまったのだ。

なんで負けたの。私は不思議に思う気持ちでいっぱいだった。あんなに精一杯走ったのに、3位になってしまった。私はあまりのショックでしばらく立ち直れなかった。応援してくれた仲間達に、申し訳ない気持ちであやまった。すると、みんなが「だいじょうぶだよ。」と言ってくれた。そのみんなのやさしさが心にしみて、くやしさを情けない気持ちから、少しずつ立ち直ることができた。

結果はもう変えられないけれど、最後に抜かれてしまったのは、一瞬の気のゆるみかもしれない。もし次があったら、今度は最後まで前だけを見て、全力で走り抜こうと心に決めた。

5-② 「絶対勝つぞー」

「絶対勝つぞー。」この日、ぼくのチームはとても大事なサッカーの試合があった。来年のリーグ戦の順位を決める入替戦だ。勝てば最高位のGリーグ、負ければ中間位のPリーグとなる。僕は、この試合に必ず勝つと心に決めて試合にのぞんだ。

試合開始の笛が鳴った。相手は強ごうのエルフリット一宮だ。この相手には今年6年生の大会で、一度負けたことがある。でも、そんなことばかり考えていたら負けてしまう。僕は真剣な気持ちになった。試合は、両チームとも攻めきと守備が互角でなかなか点が入らなかったが、前半の途中で僕の所にチームメイトからパスが回ってきた。ぼくは2人のディフェンスを抜いて、ペナルティエリアに入った。ぼくは右足を振り抜いた。ボールはゴールネットに突きささり、1対0とリードした。しかし、前半の終ばんに相手にゴールをうばわれて1対1となった。試合はそのまま同点で決着がつかず、PK戦になった。PK戦は8人目までもつれていたが、相手のシュートがはずれ、ぼくたちのチームが勝利した。

ぼくたちのチームは、このきびしい戦いを何とか勝ちきることができた。ぼく一人の力では決して勝つことはできなかつただろう。でも、チームの力を結集して一人ひとりが力を発揮し、やり切ることができた。ぼくは、この勝利のうれしさを忘れることはないだろう。この体験を今後の試合につなげていきたいと思う。

5 - ③

「やっと会えたね」

車両基地の上の歩道橋を渡った時、ひときわ目立つ新幹線がいました。その新幹線の名前は、ドクターイエローといい、新幹線のお医者さんみたいな役割を果たしています。

あわてた足取りで、最寄り駅から大井車両基地まで行きました。すると、車両基地になんとドクターイエローがいました。一編成だけだと思ったら、反対側にもう一編成いました。その時はすごく感動したと同時に、興奮していました。ドクターイエローは引退が決まっているので、見られてうれしかったです。車両基地にはドクターイエローをはじめ、多くの車両が止まっていた。

ドクターイエローは、見たかった列車でもあるので見られてうれしかったです。ドクターイエローは二編成しかないのです。簡単には見られない車両です。その二編成が、この大井車両基地にとまって

いました。本当ならこの日は検査走行日だったから、車両基地にはいないはずだったけれど、台風で東海道・山陽新幹線が運休して走行しなかったのが、この日に見られました。運も味方につけて、ドクターイエローが見られました。写真をとりました。

ドクターイエローを同時二編成見られた時は、すごく興奮していました。全部黄色の新幹線は、東海道新幹線の中でもすごく目立ちました。白の中の黄色は、かがやくような光に見えました。

5 - ④

「一石二鳥」

「え、うそでしょ。」ぼくの心に、よろこびの花がさいた。ことばの森教室で、優秀作品に選ばれたからだ。

ことばの森のふうとうの中に入っていたのは、提出用のつづりと下書き用紙、それにホームページにのせるという内容の紙だった。ぼくの友達には、ホームページにのせるという紙が入っていなかったからだ。これは何かのまちがいだと思い、先生に話したところ、まちがいでなく本当のことだった。そのことを知ったぼくは、心に花がさいたようだった。友達の中でも、作文を見るのではなく、ホームページの紙をたくさん見に来た。ぼくは、ホームページの紙よりも作文の方を見てほしかった。でも、なぜ作文を見てほしかったかは、今ではわからない。

家に帰ると、自分はさっそく父母にそのことをじまんした。そしたら、とてつもなくほめられ、またも心の中の花が開花したような気がした。その日の夕食は、お祝いもかねて外食にしてもらった。今まで生きてきた中で、一番おいしいご飯だったように思える。

ホームページにのることができて、ぼくの作文を書くモチベーションがとっても上がり、やる気も出てきた。だから、一石二鳥ではなく一石三鳥のような感じがした。また、自分に少し自信が持てるようになって良かったと思う。これからもがんばれば、必ず良いことが待っていると信じて、生活や

勉強にはげんでいきたいと思う。

5 - ⑤

「ユメのはなし」

「またあの子だ。」ぼくがゆめで見たことがある女の子が出てきました。3日連続で見たゆめです。いつも同じ子が出てくるのでふしぎでした。ぼくは、何となく先生に話しました。

その女の子は、運動会の練習中にいつもしんけんな顔をしています。ぼくは、どうしてそんなにしんけんな顔ができるのだろうと、気になっていました。リレーや他の種目の練習でもずっとです。ぼくは、「一生けん命に練習をがんばっているから、しんけんな顔なのかな。」と話しました。先生も「そうだと思うよ。」と言ってくれました。ぼくは、他の人に伝わるほどの、女の子のしんけんさがすごいと思いました。

その子は6年生で、ぼくも来年は6年生なので、見ている人に一生けん命が伝わるように練習したいと思いました。

5 - ⑥

「無駄ではない時間」

「ぐにゅ」嫌な音が鳴った。恐る恐る下を見ると、そこには・・・。

私は小さい時に、ねずみ取りにひっかかったことがある。親せきの家に遊びに行った時の出来事だ。何ともいえない悪臭と靴下からでも感じることのできる粘つき。小さい時の出来事だけれど、私は今だ、そのねずみ取りに恨みを持っている。もしも、粘着式のねずみ取りではなく、トムとジェリーとかで見るバネ式のねずみ取りだったとしたら、と想像するだけで恐ろしい。粘着式で良かったと、何度思ったことか。

嫌な思い出だけれど、良いこともあった。その後に、親せきの人がお詫びと言ってケーキをくれたのだ。モンブランと苺のショートケーキ、ミルフィーユなんてものまで。モンブランにしようか、苺

のショートケーキにしようか、ずいぶん悩んだ末に、私は苺のショートケーキを選んだ。そのケーキの美味しさと言ったら、食欲をそそる見た目、ふわふわのスポンジ、濃厚なクリーム、みずみずしい苺。ねずみ取りから靴下をはがそうと奮闘した苦勞が報われたような気がした。その後、その靴下は捨てられたけれど、私の苦勞は無駄ではないと信じている。

この出来事は、11歳になった今でも鮮明に心に残っている。これから生きていく中で、嫌なことも良いこともたくさんあると思う。でも、そのために使った時間は、決して無駄ではないと私は思う。

5-⑦

「いちごがくれた物」

「リンリンリン」ランドセルについている熊鈴が鳴ると、家の犬がゲージの中をくるくる回り出す。私がドアを開けると、いちごが私の方を向いてジャンプしている。私が「いちご、ただいま！！」と言うと、ゲージのさくに前足をのせ、ぺろぺろと顔をなめてくる。その様子がかawaiiすぎて、私がゲージの中にはいると、飛びかかってきたり、私の周りをくるくる回ったりしている。何度見てもかわいくて仕方がない。ずっとだきしめていたいと思う。

今年のゴールデンウィーク、私にとって特別な日が来た。お父さんとお母さんが「いいよ」と言ってくれたので、ずっとかいたかった黒しばをかうことができた。しば犬をかうと決まってから、お母さんと犬のことをいっぱい調べた。散歩の仕方とか、ご飯のこととか、おすわりのさせ方とかたくさん知った。その中で、犬は人間よりも寿命が短いことも知った。16年生きると、人間では80才くらいらしい。

だから私は、いちごを愛情込めてお世話したい。甘がみしたらちゃんと怒ったり、ご飯の時はお手やおすわりをしたり、たくさんだっこしたりしたい。そして短い命を、もっと大事にしてあげたい。いちごが私にくれる幸せを、私もいちごに同じくらいあげられるようにがんばりたい。いちごが、こ

の家に来て良かったなぁと思ってもらえるようにしたい。

< 小学校 6 年生 > 作文課題「ことわざから考えよう」

6 - ① 「アリの努力で優勝」

「今度は絶対に勝ってみせる。」前回の地区大会で、ライバルチームに負けてくやしい思いをした。ぼくは大好きな仲間と少年野球をしている。このチームでやる野球がおもしろくて楽しい。そしてもうすぐ、みんなとやる最後の大会がある。この大会で、ライバルチームに勝って優勝することが一番の目標だ。

ぼくは野球が大好きだから、週末のチーム練習の他にも、家で自主練習をしている。一人で素振りをしたり、かべ当てしたり、走り込んだりしている。野球を始めた頃は、苦手だったりできなかったことが、今ではできるようになってきた。それも自主練習をコツコツとやってきたからだ。できなかったことは、ある日とつぜんできるようにはならない。毎日の練習を大切に積み重ねて、やっとここまでできた。

「アリの思いも天に届く」ということわざを知っていますか。小さな努力でも続ければ大きな成果につながるという意味だ。アリは小さい虫だけれど、一生けん命働いて食べ物を集めたり、巣を作ったりしている。ぼくもアリのように、小さな努力を重ねて、自分に自信を持って大会にのぞみたい。

最後の大会が近づくと連れて、緊張も増してきた。でもぼくは、「アリの思いも天に届く」ということわざを思い出して、自分の努力も信じることにした。そして、大好きな仲間を信じ、最後は絶対に優勝するぞ。

6 - ② 「失敗を重ねて」

私が生活の中で大切にしていることわざは、「失敗は成功のもと」ということわざである。

なぜ、このことわざを大切にしているのかというと、私がすぐにあきらめてしまう性格だったからだ。すぐに「どうせできない。」「もうあきらめよう。」とってしまうせいで、後から「まだできたのかな。」とってしまうことがほとんどだ。しかし、このことわざの意味は、「失敗の教訓を生かし取り組めば、成功に結びつく」という意味があったのだ。「私と正反対だ。」と思いながらも、じっとそのことわざの意味を見ていると、疑問が生まれた。「失敗の教訓を生かすってどういうことだろう。」と思ったのだ。疑問に注目し、更に調べてみると、こんなことが出てきた。「失敗した人が次に必ず成功するとは限らない。反省をしっかりとしなければ、また同じ様な失敗をしてしまう。」ということだった。「反省をしっかりとすることが、成功へつながっていくのかな。」と自分なりの考えができた気がした。

これからは、「失敗は成功のもと」ということわざを心に、すぐ「もうできないや。」と思うのではなく、「どこがダメなのかな。」「もっとこうすればいいのではないかな。」と分析をし、失敗しても何度でもチャレンジしていきたい。

6 - ③ 「小さな努力」

「ちりも積もれば山となる」小さなちりでもたくさん積もれば山となるように、わずかな物でも集まれば大きくなるという例え。国語辞典には、そう書かれていた。僕は、「ちりも積もれば山となる」は、勉強に当てはまると思っている。

5年生の頃、漢字が苦手だった。「漢字は苦手だ、無理だ」と思っていたら、漢字のテストの点数が50点、40点、30点、と低くなってしまった。さらに、50問テストでは、32点を取っていた。これはまずい、僕はそう思った。漢字を覚えるために、毎日2つの漢字を10個ずつノートに書

いた。あまり意味がないのでは、と僕は思っていた。けれど、前よりもずっと漢字が書けるようになってきていることに気がついた。そして、50問テストの再テストで98点を取ることができた。一日10分ほどの小さな努力でも、しているか、していないかで大きな差がでることが分かった。これは、「ちりも積もれば山となる」とまったく同じだと思った。このことから、このことわざは勉強に当てはまると考えた。

今、勉強が嫌だと思っている人や苦手な人がいるかも知れない。けれど「ちりも積もれば山となる」のように、ほんの小さなことでもいいから、復習をしたり、努力をしたりして欲しい。その先にある結果は、すばらしいものになると僕は思う。

6 - ④

「慎重に慎重に」

「しまった。」ランドセルの中を見たら、昨日出た宿題のプリントが入っていなかった。今朝は起きるのが遅く、バタバタしていた。集合する7時50分になった。朝ご飯をしっかりとすませて、集合する場所へと向かった。ギリギリそこに間に合った。結局、急いだからこの結果になってしまったのだ。

ぼくは基本忘れ物をしない。朝は時間に余裕があり、いつもだと忘れ物チェックを必ず2回する。しかも当日の教科書や、出た宿題はしっかり見て数える。だから毎日すっきり学校に行くことができる。しかし、今日は違った。教科書などをささっと見て、宿題を入れたか分からないで家を出た。だからモヤモヤして「忘れ物をしていないといいなあ」と思いながら学校へ向かった。

朝の会が始まる前、先生に報告するために階段を下りた。先生は、「明日持ってきてね。」と言ってくれた。ぼくは教室にもどって、今日の朝をふり返った。そうしたら、よくなかった所が2つあった。一つは、前の日の夜に11時まで起きていたことだ。夜遅くまで起きていたから、起きるのが遅くな

ったのだ。二つ目は、朝に起きるのが遅くても、しっかり持っていく物は確認すべきだったということだ。

「急がば回れ」このことわざのように、何事でも急いでやるのではなく、ていねいにやってミスを減らした方がよいと感じた。

6 - ⑤ 「手術を乗り越えて得たもの」

心身共に健康でいることは、何ものにも代え難い喜びだ。しかし、病気やけがによって手術を経験したり、生死をさまよったりするような体験をした時、私たちは改めて健康の尊さを痛感する。

私は漏斗胸のため、2回の大きな手術を経験した。肋骨の裏側に金属製のバーを入れる最初の手術は、痛みとの戦いだった。術後は、食事や睡眠も十分に取れず、息を吸うことさえも辛い状況は、それまでに経験したことのない苦しみだった。しかし、辛い手術と痛みを乗り越えた後、今まであった不安は消え去り、健康を取り戻したと実感できた時の喜びは、何ものにも代え難いものだった。まるで、暗闇から光へと導かれたような、そんな感覚だった。手術という試練を乗り越える過程で、自分自身の心の強さを知り、自信になった。そして周囲の人々の温かい支えに気づかされた。家族や病院のスタッフの励ましの言葉が、私にとって大きな力となり、困難な状況を乗り越えることができた。

「人間万事塞翁が馬」ということわざのように、一見不幸と思える出来事が、実はその後の人生にとって大きな転機となることがある。手術という苦しい経験をしたからこそ、私はそれまで考えもしていなかった健康の大切さを学んだ。そして、病気や怪我で苦しむ人達の気持ちを理解できるようになった。今後も、健康でいられることに感謝して過ごしていきたい。

6 - ⑥ 「大切なのは反省」

「やった、勝った。」そう言って、手をグーにして上げた。目の前には、黒と白のコマとお父さんがいる。初めてお父さんに勝った。何年も練習して、ついにオセロに勝てた。

「お父さん強い。手加減して。」私はずっと負けっ放しで、こえられなかった。本を読んだり、相手の動きを見たりして、4年ぐらい練習した。やっと勝てた。一つ上の自分にいけた。そこへ行くまでには、ころんだり、けがをしたりもあった。何回も負けて、何回も泣いて、それを反省して、また挑んでいった。何回失敗しても、あきらめずにコツコツ練習して、勝った。「失敗は成功のもと」という言葉の通り、たくさんの失敗を改善すれば、成功するのだと感じた。私は前まで、きれい事だと思っていた。でも実際に経験して、深い意味があるのかと感じた。失敗は成功のもとだけれど、何度も失敗してぶつかり続けるだけではだめだ。反省して悪い点や直した方がいい点をふまえて、新しくぶつかるのが大切だと思った。だから、成功するために失敗を積み重ねるのではなく、成功する前の失敗の反省を改善していくのが大切だと思った。

これからも目標へ向かう時には、一つ一つのことを見ながら取り組んで一つずつ上の自分になるように過ごしたい。